

2014 タスカルーサ市青少年訪問団 in Japan 「並はずれて素晴らしい！」習志野の2週間

国際交流部会副部長 日向洋美

「この2週間の本当に素晴らしい習志野訪問に感謝いたします。派遣された高校生にとっては、どんなに大切に人生を変えるような交流ができたことか...言葉で言い表すことが出来ないほどです。皆様の温かいおもてなしに心からお礼申し上げます。(Thank you again, so very much, for a truly wonderful visit to Narashino these past two weeks! Words cannot begin to express how great and life-changing this exchange meant to the student delegation, and how much your incredible organization skills are appreciated!!)」...

タスカルーサ姉妹都市国際委員会代表のリサ・キーズさんの帰国後の第一声メールです。

6月19日から習志野市を訪問したタスカルーサ高校生16名と付添2名は、同日のホストファミリーとの顔合わせ会を始めに、市内の高校での交流、都内見学、富士山への一泊旅行、市内見学、市民との交流、京都・奈良見学を終え、7月1日帰途につきました。到着時には半分の学生は緊張の面持ちでしたが、日程をこなすに連れ、毎朝笑顔でホストファミリー宅での出来事などを話してくれ、日程の半ばが過ぎた頃には、ほぼ全員と毎朝夕ハグをするようになりました。

今回初めての試みは、7月にタスカルーサに派遣する市内4校の高校生20人を富士山に同行したことです。最初はアメリカ人と日本人はお互いに小グループに分かれ、なかなか交流が進まなかったのですが、帰国子女の生徒が中心となって夕方花火をする頃には、皆打ち解けてきたようでした。若い時の交流は、両国の青年達にとって、全てが良い体験になったことと思います。

習志野市にあるアメリカンフットボールの

社会人チャンピオンチーム「オービック・シーガールズ」への訪問も初めてでした。アメリカ人の2人の選手に訪問団生徒が次々と質問し、(納豆を食べた時の感想など、日本の生活にどのように慣れたかの質問も多く出ました) 予定された時間があっという間に過ぎ、改めて米国でのアメフトの人気を再認識しました。

ハイライトは谷津干潟自然観察センターで行われた「さよならパーティ」でしょう。ハクビキもの学院の先生方が着物と着付けを提供してくださり、NIA ボランティアの元カリスマ美容師が髪を結びあげパーティに臨みました。お箏の演奏の中、入場した一行の嬉しそうな顔...一人一人に聞いた日本の印象は、ほとんどが温かいおもてなしをあげ、話しているうちに涙が止まらない学生達も何人もいました。

最後になりましたがこの紙面をお借りして、ご協力いただいたホストファミリーの皆様、市や文化ホール・企業局・NIA事務局の皆様、そして数カ月も一緒に準備を重ねたボランティアスタッフに心からお礼申し上げます。リサ・キーズさんの今回の感想は、

「Extraordinary! (並はずれて素晴らしい!)」

でした。



別れを惜しんだ送別会で